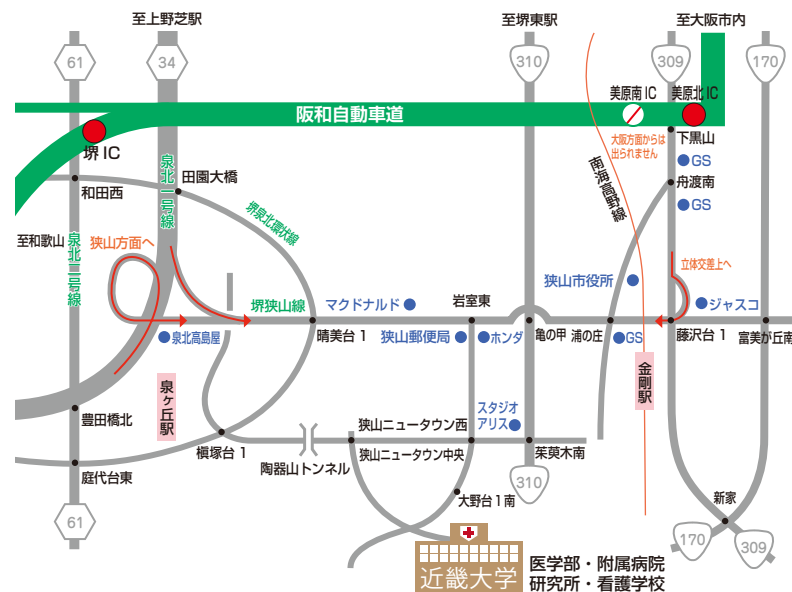
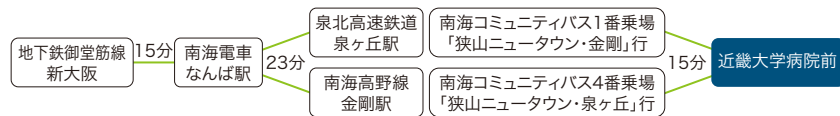


アクセス



電車・バスで
お越しの場合



各診療科のご案内

- 3F** 産婦人科、小児科、眼科、皮膚科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、疼痛制御センター(麻酔科)、形成外科、歯科口腔外科、東洋医学診療所
- 2F** 循環器内科、内分泌・代謝・糖尿病内科、消化器内科、血液・膠原病内科、腎臓内科、神経内科、腫瘍内科、呼吸器・アレルギー内科、メンタルヘルズ科、外科(上部消化管、下部消化管、肝胆脾)、外科(肺)、外科(乳腺内分泌)、外科(小児)、脳神経外科、心臓血管外科、心療内科、漢方診療科、緩和ケア科
- 1F** 整形外科、放射線治療科、放射線診断科、リハビリテーション科

外来受付時間

平日	土曜	休診日
予約外又は紹介状をお持ちでない 患者さん 8時30分～11時30分	8時30分～11時00分	日曜日・祝日 創立記念日(11月5日) 年末年始 (12月29日～1月3日)
紹介状をお持ちの患者さん 8時30分～14時00分		

※当院での治療等を必要とされる場合、紹介医からの紹介状が原則となっておりますので、当院宛の診療情報提供書(紹介状)を持参頂きますようお願いいたします。
※初診時に紹介状をお持ちでない方には、保険外併用療養費として10,800円(税込)をご負担頂きます。
※診療科によっては、完全予約制や休診日もございますので、詳しくは各診療科にお問い合わせください。

患者さん向け駐車場委託に伴う
変更について

2015年4月1日より、駐車場利用方法及び料金に変更になりました。当日受診の患者さんは、駐車券を院内へお持ちいただき、2階会計窓口で割引処理を行ってください。精算は屋外(病院棟1階出入口付近)の事前精算機をご利用下さいませ。様お願い申し上げます。ご利用に関しては、ご理解の程何卒よろしくお願い申し上げます。

入場より
最初の
30分
無料

● 当日受診の患者さん

入場より

3時間まで 100円

4時間まで 300円

以降60分 / 100円

当日1日最大料金 1000円

● お見舞いの方・一般の方

入場より

1時間まで 300円

以降60分 / 200円

編集後記

発行日 平成27年6月1日
発行場所 近畿大学医学部附属病院
編集 広報誌発行委員会 大磯 直毅

近畿大学医学部附属病院広報誌「きずな Vol.14」をお届けします。
本年、開院40周年を迎えました。南大阪の地域医療から先進医療まで幅広い診療を展開できる特定機能病院として、皆さまに安心・安全な医療を提供できるよう教職員一同取り組んでいます。
これからも附属病院の進化を分かりやすくお伝えできるように誌面を刷新していきます。今後とも皆さまとのつながりを大事にする「きずな」をご愛読のほど、宜しくお願い申し上げます。

きずな

Vol.14
Summer-Autumn

Kinki
University Hospital,
Faculty of Medicine



Kindai Now
開院40周年

未来を見据えた「近大医療」

入院センター

安全・安心・スムーズに
治療を受けていただくために開設

眼科「白内障」

がんセンター がんと向き合う



近畿大学医学部附属病院

病院長メッセージ

厳しい審査基準をクリアした「認定病院」として質の高い医療を

当院は、日本医療機能評価機構より「認定病院」としての評価を受け、先端医療を追求すると共に、南大阪地区における地域医療の貢献に努めています。

認定の審査は中立・公平な立場に立つ評価調査者（サーベイヤー）が行い、所定の評価項目に沿って、病院が組織的に医療を提供するための基本的な活動（機能）が、適切に実施されているかを評価します。そして、評価で明らかになった課題に対し、病院が改善に取り組むことで医療の質向上が図られます。

この病院機能評価で、一定の水準を満たした病院が認定病院です。つまり、認定病院は、安心・安全、信頼と納得が得られる医療サービスを提供すべく、常に努力している病院だと言えます。当院はこれからも、さらなる医療サービスの質向上に努めてまいります。

病院長 奥野 清隆



【理 念】

患者本位の開かれた病院として、安全で質の高い先進医療を提供します。

【基本方針】

- 1.特定機能病院として、医学医療の進歩に関与し、社会に貢献します。
- 2.教育病院として、人に愛され、信頼され、尊敬される医療人を育成します。
- 3.南大阪における基幹病院および救急災害病院として地域医療に貢献します。
- 4.働きがいのある病院として、チーム医療と環境整備に努力します。

《受診される皆さまの権利》

近畿大学医学部附属病院では受診される皆さまが以下に掲げる権利を有することを確認し、尊重します。

1. 人間としての尊厳を尊重されながら医療を受ける権利
2. 病院全機能をあげて最善で安全な医療を受ける権利
3. 自らの心身の状態を理解するために当院から必要な情報を得る権利
4. 当院から必要十分な情報の説明を得た上で、自己の自由な意志に基づいて医療行為を決定する権利
5. プライバシーの保護を受ける権利
6. 必要に応じ、医療費用の内容に関する情報を受ける権利

《臨床倫理》

1. 医療を受ける人々の権利を最大限尊重するとともに、医療を受ける人々の最善の利益を追求する医療を提供する。
2. 医療を受ける人々の信条や価値観に十分配慮する。
3. 医療内容、治療の選択について詳しく説明し、医療を受ける人々の自由な意思に基づいて医療行為を決定する権利を尊重する。
4. 倫理的な問題を含むと考えられる医療行為については、法令やガイドラインを遵守するとともに、院内において十分審議検討を行う。

Contents

病院長メッセージ	P.1
Kindai Now 開院 40 周年 未来を見据えた「近大医療」	P.2
特集 入院センター	P.3～P.4
特集 眼科	P.5～P.6
特集 がんセンター「がんと向き合う。」	P.7～P.8
診療科紹介 リハビリテーション医学	P.9
研究室紹介 Who's who ゲノム生物学	P.10
Face of the hospital 看護部	P.11

Face of the hospital 中央臨床検査部	P.12
Face of the hospital 栄養部	P.13
Face of the hospital 安全管理部	P.14
つながる近畿大学 理工学部	P.15
卒業生の今	P.16
連携病院 つなぐ さくら会病院	P.17
患者支援センター	P.18

表紙写真:平成27年4月から新制服に変わりました。近大カラーを取り入れたこの制服で、ますます頑張ります。

Kindai Now

開院40周年

未来を見据えた「近大医療」

◎近畿大学医学部附属病院は今年、開院40周年を迎えますが、医学部が目指す医学とはどのようなものでしょうか？

医学部長： 「人に愛され、信頼され、尊敬される人を育成する」という近畿大学の建学精神を踏襲し、「患者さんに愛され、信頼され、尊敬される医師の育成」に努めています。これは医師だけでなく、すべての職種にiegerことで、附属病院においても教育には力を入れています。

◎患者さんに信頼していただくために大切なことは何でしょう？

医学部長： 「知識・技術・決断力・心」という、4つの要素が大切です。知識と技術は、治療する上で必要不可欠な基礎であることはいまでもありません。患者さんの状態は千差万別です。そのような状況では、治療方法を迅速・適切に決定する決断力が問われます。そして、最も大切と言えるのが、心です。いくら技術が優れていても、患者さんの想いを理解できないようでは、真の医療とはいえません。医学部および附属病院では、常に患者さん視点の医療を心がけています。



医学部長 伊木 雅之



書店にて好評発売中！！



◎心を育てることはむずかしいと思いますが、医学部ではどんな取り組みをされていますか？

医学部長： 例えば、医学生の実習で、高齢の患者さんと接する機会を多く設けています。直接話しをすることでコミュニケーション能力が高まると共に、患者さんがどんな不安や苦しみを抱えておられるのかを実感し、どうすれば軽減できるかを考えるようになります。また、本州最南端の串本町にある病院での実習では、患者さんに疾患のレクチャーを行うなど、体験を通して地域医療を学んでいます。

◎大学病院の特長として、先端医療が挙げられます。近畿大学では、大学と病院でどのように連携されていますか？

医学部長： 常に患者さんの治療につながる研究を行っています。現在、特に力を入れているのが、がんの研究です。代表例として、がん細胞が持つ特異的な性質を分子レベルでとらえ、効率良く作用する「分子標的薬」が挙げられます。研究部門と病院が連携することで、研究の精度やスピードアップにつながっています。

◎最後に今後の展望をお聞かせください。

医学部長： まずは2023年に予定されている、附属病院と医学部の泉ヶ丘への移転です。附属病院は、高度先端総合医療センター、がんセンター、脳卒中センター、心臓血管センターなどの最新機能を備えた病院となり、介護関連施設の併設も予定しています。移転により、医療サービスの質向上はもちろん、今よりもさらに患者さんに近い病院を目指したいと考えています。

TOPICS

朝日新聞出版から「近畿大学医学部byAERA」が発刊されました。救命救急の現場や臨床と研究の最前線など「近畿大学医学部」を感じていただける1冊になっています。

入院センター

2014 年 12 月に、入院センターが開設されました。入院前に、病気の症状や服用されている薬、生活環境など、患者さんの情報を収集することで、医療トラブルのリスクを低減し、効果的な治療・ケアを行うことが目的です。

麻酔科と歯科口腔外科が加わった事で、より安全・安心・スムーズに入院生活を送っていただける体制となりました。

入院までの流れ

入院案内

入院受付

入院相談

病床管理

安全・安心・スムーズに 治療を受けていただくために開設

入院センター開設の大きなきっかけとなったのは、厚生労働省が定めた DPC（包括医療費支払い方式）の導入です。DPC とは、病名と治療内容の組み合わせによって病気を分類し、1 日あたりの定額点数を中心に入院費用を算出する方式です。

この制度が導入されたことで、病気の疑いがある場合、これまでの入院して検査・診断・治療を行う流れから、検査・診断は外来で行い、できるだけ入院期間を短くする流れに変わってきました。その結果、患者さんと医師や看護師がコミュニケーションを図る時間が限られてしまい、十分な情報がない状態で治療をはじめなければならない課題が出てきました。この状況を改善し、患者さんに安全・安心に治療を受けてい

ただくことが、入院センターの役割です。

外来で入院の指示を受けた場合、まず入院センターにお越しいただき、事務手続きと入院の説明を受けていただきます。その後、看護師による問診で症状や服用されている薬、普段の生活環境、食物アレルギーについてなどを確認させていただき、入院生活の具体的な説明をいたします。また、全身麻酔で手術を受ける患者さんは、麻酔科術前外来に加えて口腔チェックを受けていただく必要があります。

そして収集した情報を元に、センターに所属する医師、看護師、薬剤師、栄養士が連携し、入院時からスムーズに治療・ケアを行える環境を整えます。

問診に「総合評価スクリーニング」を取り入れていることも、当院の入院センターの特長です。事前に認知症に関する情報を確認し、対策を行うことで、入院中の認知症の進行や、せん妄行動による医療事故の防止につなげています。

歯科口腔外科と麻酔科が加わり センターの体制がさらに充実

2014 年 12 月から歯科口腔外科、2015 年 4 月から麻酔科が入院センターに加わりました。

全身麻酔で手術を受けられる予定の患者さんには、歯科口腔外科で口腔チェックを受けていただいています。「手術を受けるのに歯の検査は必要？」と、疑問に思う方もいらっしゃるでしょう。実は、手術中は無意識に口に大きな力がかかるため、歯の状態が良くない場合、歯を損傷することがあるのです。こうした口のトラブルや、誤嚥性肺炎、血行性感染などの予防のために、入院前に口腔チェックを実施しています。歯の不安や、人工歯やインプラントの場合は、お伝えください。

麻酔科は、合併症の軽減と周術期管理の向上、日常生活への早期復帰を目的に、外来で術前評価を行っています。そして、患者さんに麻酔法とそれに伴う合併症についてご説明し、不安の軽減を図っています。

さらに、これまで土曜日のみだった麻酔外来を月～土に拡

大し、受診していただきやすくなりました。外来には看護師が常駐しており、手術を受けられる時の注意点の説明を行い、患者さんの声を傾聴するなど、親身にサポートを行っています。

安全に治療を行い、スムーズに退院していただくために、ご協力お願いいたします。

NEWS

患者さん用 休憩スペース& 多目的室開設！

当院の全職員が働く視点から環境改善を意識し、より患者さんに満足いただける病院を目指した取り組み、「職員満足度向上プロジェクト」が発足しました。

プロジェクトに先駆けて実施したアンケートでは、「患者さんにご利用いただける休憩スペースがない」との声が多くありました。そこで、外来近くの椅子で食事をされている患者さんのスペース確保、という視点で環境改善に向けた改装を行い、1 階防災センター横に「患者さん用休憩スペース & 多目的室」が完成しました。

40 席以上のスペースがあり、休憩や食事をしていただけます。多目的室はストレッチャーのままご利用いただけ、おむつ交換も可能です。ぜひご利用ください。

(利用時間/月～金 6:30～18:00 土 6:30～15:00)



眼科

色々な眼の病気

緑内障

加齢
黄斑変性

白内障

眼底の病気

ぶどう膜炎

ドライアイ

屈折異常

前眼部疾患

鼻涙管閉塞症

糖尿病網膜症

ものもらい

飛蚊症



のケガなど）や、併発性（眼内炎症など）、内分泌代謝異常性（糖尿病など）、薬物性（ステロイドなど）があります。

水晶体は、65％が水分で、残りはクリスタリンという可溶性のタンパク質と、アルブミノイドという不溶性のタンパク質でできていて、加齢に伴い変性したクリスタリンが溜まり、水晶体全体が濁ってしまうのが原因です。白内障は白髪になるのと同じように、誰もが年をとるにつれてかかりやすくなります。

主な症状は、かすんで見える、明るいところに出るとまぶしく感じる、暗いところだと見えにくいといった症状が挙げられます。その他にも、片目で見ると二重三重に見えるケース（単眼複視）もあります。これらの症状が出た後、一時的に近くが見えやすくなることがありますが、それは水晶体の厚みが増して近眼になるためで、回復したわけではありません。一刻を争う病気ではありませんが、進行すると視力を失うこともあるので、50 歳以上の方で下記の症状がある場合は、診察を受けられた方が良いでしょう。

かすんで見える

・雲がかかったように

近くが見やすくなる

・老眼が治った
・眼鏡なしでも近くが見える

まぶしくなる

・光の強い屋外や逆光
・夜間の運転時に対向車のライト

白内障

二重・三重に見える

・月がいくつにも見えるなど

患者さんの負担が少ない 超音波手術が主流に

白内障の治療には、点眼療法と手術の2つの方法があります。点眼療法は進行を遅らせることはできませんが、濁った水晶体をきれいにすることはできません。手術では濁った水晶体を取り除いて、眼内に人工的な眼内レンズを挿入するため、白内障による視力障害の改善が可能です。しかも眼内レンズは、取り替える必要がありません。

手術には、水晶体のカプセルをそのまま取り出す「囊内摘出術」、カプセルを眼内に残して白内障の部分だけを取り出す「囊外摘出術」、超音波で白内障を砕いて吸い取る「超音波乳化吸引術」の3種類があります。

現在の主流は、切開する長さが小さく済む（約2.4mm）、超音波乳化吸引術です。切開創が小さいことで、術後の乱視防止や早期回復の効果があります。最近では、乱視矯正眼内レンズや遠近両用眼内レンズなども普及してきています。

このように白内障の治療技術は進歩しており、痛みも小さくなっています。日帰り手術も可能で、保険適用ですので、治療していただきやすい環境だといえます。

比較的短い時間で済むため、簡単な手術というイメージがありますが、実際は非常に高度な技術が必要であるため、当院では専門医が細心の注意を払って行っています。そして、できる限り安心して治療を受けていただけるよう、診察時から退院まで、丁寧に説明するよう心がけています。

「白内障」という病名は、よく目にされることでしょう。ご家族が白内障にかかったことがある方や、「もしかしたら白内障かも…」と、不安に思っておられる方もいらっしゃるかもしれません。

現在では広く知られている白内障ですが、何が原因で発症するのか、どんな治療方法があるのかは、あまり知られていないのが実情です。そこで今回は、症状が軽い早期に診察を受け、安心して治療を受けていただくために、白内障についてご説明いたします。

白内障は、主に加齢によって 水晶体が濁り発症する病気

白内障は、目の中にある水晶体が白く濁ってしまう病気です。水晶体はカメラのレンズと同じはたらきをする組織で、光を集めてピントを合わせ役割を果たしています。ところが、水晶体が濁ると光が眼底に届かなくなり、視力が低下してしまうのです。

白内障を大きく分けると、先天性と後天性の2種類があります。先天性の代表例は、妊娠初期の母体の風疹感染です。後天性の大半は加齢によるものですが、この他にも外傷性（目



当院が地域がん診療連携拠点病院に指定されて以来、「がん」という病気や治療についての普及・啓発活動の一環として年 1 回開催しております。今回は「がん治療の光と影」をテーマとし、特別講演に「チーム・バチスタの栄光」の著者で知られる海堂尊氏をお招きしての講座となりました。約 300 名の方に参加いただき、大変ご好評でした。



2015年3月9日(月)大阪初芝学園初芝富田林中学・高等学校にて、医療従事者を目指す中、高校生76名を対象に「がん教育ワークショップ」を開催しました。身近な人ががんになったときの「告知」をテーマに、患者さん・ご家族の想いについて、医療者がファシリテーターとして参加しながら、学生がグループディスカッションを行いました。医療者の講演では、がんに対する正しい知識やがん患者さんに対する理解力を高め、命の大切さを改めて考えてもらえる場となりました。



豆腐のおろし蒸し

材料 きぬごし豆腐(50g)／大根おろし(30g)
長芋おろし(30g)／塩 少々
しめじ(15g)／みつば(5g)
淡口しょうゆ、酒、みりん、片栗粉

作り方

- ① 大根・長芋をすりおろし、塩を入れてよくかき混ぜる
- ② しめじ、みつばをさっとゆでておく
- ③ きめこ豆腐を器に入れ、その上から①をかけて蒸す
- ④ 淡口しょうゆ、酒、みりん、片栗粉であんをつくり、②を加える
- ⑤ 蒸した③に④のあんをかけて完成

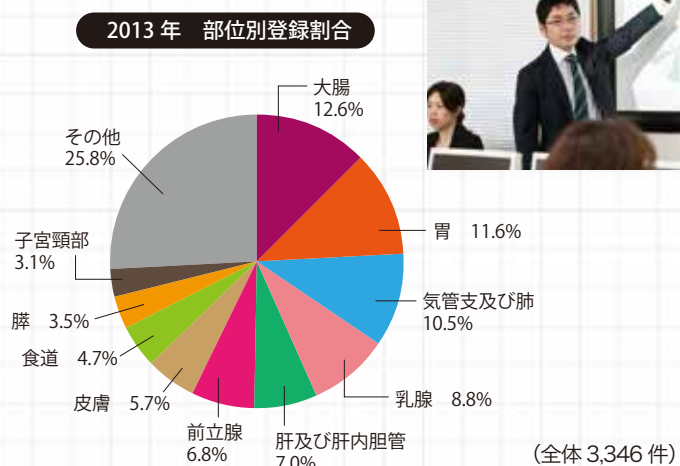
※豆腐はあっさりとしていて摂取しやすい蛋白源のひとつです

院内がん登録室の主な活動は、当院に来院されたがん患者さんすべての方の情報を収集することです。当院の外来患者さんは、1日平均約 2,000 名、入院患者さんは年間約 20,000 件。その中からがん患者さんをピックアップして、登録します。登録件数は、年間約 3,000 件にのびます。

登録内容は国立がん研究センターの「標準登録様式」に基づいており、がんの種類や治療方法だけでなく、症状の進行度、当院で受診されるまでの経緯など多岐に渡ります。研修を受けた専従スタッフが、カルテだけでは伝わりにくい情報も、すべての関係者が正確に認識できるように登録します。もちろん、情報漏えい防止の体制もしっかり整えています。

院内がん登録室のもうひとつの大きな役割は、収集された情報の提供や分析です。膨大な情報から、傾向や治療法の比較データなどを割り出し、院内がん登録委員会において各診療科と共有し、がん診療における情報提供にも役立っています。

今後は、当院独自のきめ細やかなデータを収集し、がん治療・ケアの向上につなげることが目標です。さらに、地域の医療施設にもアウトプットして、地域のがん医療の向上に貢献できればと考えています。



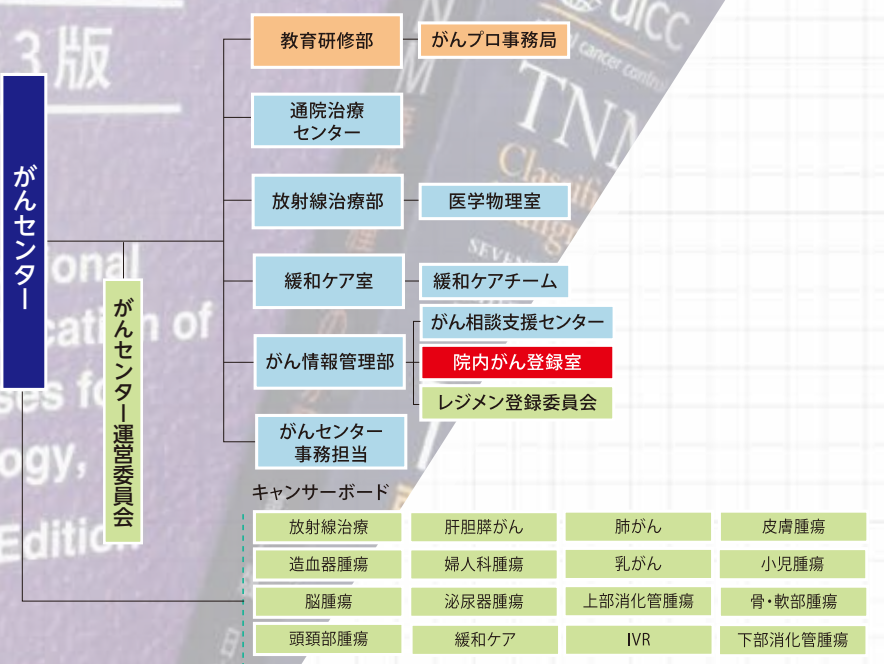
管理栄養士が提案するがん患者さんのための食事と工夫

化学療法や放射線治療を受けている多くの患者さんが食事に対して悩みをかかえておられます。副作用として現れる吐気・食欲不振・味覚の変化・口内炎などは「食べること」に大きく影響します。そのような副作用に対して、食事内容を摂取しやすい形態・量への食事提案をさせていただいたり、ご自宅でも食欲不振時に摂取しやすいメニューやお食事のアドバイスさせていただいたりなど、患者さんの食事に対する苦情を和らげ、栄養状態を維持できるよう取り組んでいます。

当院は、質の高いがん医療を目指して、2007 年に「がんセンター」を開設しました。通院治療センターや放射線治療部など、がんに関する専門的な部署を設置し、院内のがん治療・ケアだけでなく、地域の医療機関との連携強化、優れたがん専門医の育成などに取り組んでいます。

今回は、かん情報管理部内の「院内がん登録室」をクローズアップ。がん治療の向上を目標とした活動を紹介します。

■がんセンター組織図



院内がん登録室

院内のがん情報の収集・分析し、
治療・ケアの向上につなげる

当院は2009年4月に「地域がん診療連携拠点病院」に指定され、それに伴い「院内がん登録室」を開設しました。地域がん診療連携拠点病院とは、地域で質の高いがん医療を提供するための中心的な役割を担う病院です。

院内がん登録室は、院内のがんに関する情報を収集・分析し、治療やケア、患者さんのサポートに役立てています。さらに国や都道府県と連携し、がん医療の向上に貢献しています。



質の高いがんの治療とケアを提供するために

診療科紹介

リハビリテーション
医学医学部講師
上田 昌美技術科長
寺田 勝彦多職種のスタッフが力を合せ
疾患による機能障害の回復をサポート

リハビリテーション医学では、入院されている患者さんを対象に、機能の改善や早期退院に向けてのリハビリテーションを実施しています。リハビリテーションの対象疾患は、脳血管障害、神経筋疾患、呼吸器・循環器疾患、外傷など多岐に渡ります。

リハビリテーション部には、さまざまな領域の専門医の他に、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が所属しており、薬による治療と並行して、患者さんの状態に合わせて運動療法、作業療法、言語聴覚療法、電気刺激療法などを組み合わせたリハビリテーションを行っています。

当院では患者さんにとって最適な治療を行うために「チーム医療」を行っており、リハビリテーション医学でも週に一度スタッフ全員が集まり、リハビリテーションを受けておられる患者さんの回診とカンファレンスを実施しています。また、看護師や医療相談員とも連携し、入院生活を安全・快適にすると共に、スムーズに退院・社会復帰ができるようサポートしています。

症状悪化の防止と早期回復を目的に
予防的なリハビリテーションを実施

リハビリテーション医学の特徴は、疾患を診るのではなく、患者さんを診ることです。機能障害を改善するためにトレーニングをすることも重要ですが、患者さんが自分らしく生活できるように環境を整えることも欠かせません。そのために、生活環境や職場環境だけでなく、患者さんがどのような暮らしを思い描いているのかをくみ取り、スタッフ間で共有するよう心がけています。

近年、リハビリテーションでは予防医学の観点が重要となっており、当院でも予防的なリハビリテーションを積極的に行っています。この取り組みによって、手術による負担軽減・早期回復、入院中の体力低下・認知機能低下の防止につながっています。

入院中だけでなく、普段の生活の中でも適度な運動をすると、肥満・糖尿病・うつ病・認知症の予防をはじめ、転倒予防、心肺機能の維持・改善に役立ちますので、チャレンジしてみてください。



研究室紹介

Who's Who
ゲノム生物学がん治療を大きく前進させる
世界最先端の研究に取り組む

「ゲノム」という言葉を見ると、日常生活とかけ離れているように感じるかもしれませんが、実は密接に結びついています。ゲノム (genome) とは、遺伝子 (gene) と染色体 (chromosome) を合わせた言葉で、DNAのすべての遺伝子情報を意味します。例えるなら、遺伝子を真珠とするなら、ゲノムは真珠でつくったネックレスのようなものです。

私たちの研究室は、厚生労働省と共同で、がん治療の個別化・最適化を図る研究を行っています。研究の大きな柱のひとつは、「マルチ・コンパニオン診断」と言われる技術開発です。

これまでの肺がんの遺伝子診断は、いくつもある検査を個別に行っていたため、約半年かかっていた。しかし、マルチ・コンパニオン診断ではすべての検査を一度に行うことができ、1週間で結果を出すことが可能です。検査期間を短縮することで、綿密な治療計画を立て、早期に治療できるメリットが生まれます。

技術を開発することも大切ですが、それが活用されるようにすることも同じくらい大切です。そのため現在は、マルチ・コンパニオン診断が保険適用になるよう、積極的にはたらきかけています。

研究のもうひとつの柱は、肺がんの耐性の遺伝子変異を見つける、「リキッド・バイオプシー」という技術の開発です。従来の検査では患者さんの組織から採取したサンプルを使用しますが、新しい検査法では少量の血液で検査ができるようになります。これにより検査期間が大幅に短縮され、効果的な薬が早く分かるため、患者さんの薬代が軽減されます。

実用化されれば、おそらく世界初。でも、そのことよりも、患者さんの役に立てることがいちばん嬉しいです。

過去の苦い経験が
患者さん視点の研究の出発点に

常に患者さんを見据えて研究をすることが、私のモットーです。この想いを強く持つようになったのは、過去の苦い経験が教訓になっています。

以前の職場での研究で、肺がんの治療薬であるイレッサに効果があることが分かりました。しかし、臨床データが充分に取れず、論文発表に至らなかったのです。そのうちにアメリカの研究グループがイレッサの効果を発表し、先を越されたかたちになりました。

この経験によって、臨床データの解析が実用化の近道であることを実感しました。その後、活動の場が近畿大学医学部に変わり、患者さんとの距離が近くなったことは、研究活動だけでなく、自分自身の姿勢についても大きな転機となりました。

最近では、患者さんの遺伝子検査をして効果的な薬剤治療を行う、「遺伝子診療部」の開設(2015年4月)にも参画させていただきました。

現場の医師と連携し、ダイレクトに患者さんの力になれることは、研究者としても大きな喜びです。大きな可能性を持つゲノム生物学を、今後もさまざまな分野でかたちで活用できるよう努めていきたいと考えています。

ゲノム生物学教室 教授
西尾 和人

Face of
the hospital

看護部

急性期から終末期まで、
多岐に渡る看護を行う「105病棟」

腫瘍内科・泌尿器科の混合病棟です。急性期から終末期まで多岐に渡る看護を行っています。
手術や化学療法を受けられる方がほとんどであり、泌尿器科ではロボット支援下の手術、腫瘍内科では治験を受けられる患者さんもおられます。
他職種との連携を行い、定期的に他職種とカンファレンスを行い、患者さんやご家族が望まれる看護の方向性を話し合っています。

看護長からのあいさつ

患者さん・ご家族の思いを考えると、思いやりある態度と気持ちを大切にスタッフがいきいきと看護が実践できるように、主任と話し合いをしながら病棟づくりに努めています。スタッフ一丸となって常に話し合いを重ねながら適切な看護が提供できるように頑張っています。

看護長 安原 昌子



在宅看護専門看護師の紹介

平成27年4月から「難病患者在宅医療支援センター」の専任看護師になりました。難病患者さんやご家族が地域で安心して療養を継続できるように、診療所や訪問看護、地域の病院をはじめ福祉・介護関係者と連携して、医療・ケアの質向上に向けて相談・研修などの事業を企画・調整・実践する役割を担います。特定機能病院の在宅看護専門看護師として、病院と地域関係者の相互理解を助ける懸け橋になれるよう努めたいと思います。

看護部・患者支援センター
難病患者在宅医療支援センター
主任・看護師 河野 政子

Face of
the hospital

中央臨床検査部

専門性を高め、信頼できる検査データを
提供する臨床検査技師

精度保証施設認証書



今回は採血や血液、尿、心電図、超音波の検査などを行っている臨床検査技師（検査技師）について紹介させていただきます。

1. 検査技師とその業務範囲

検査技師として業務を行うには3年あるいは4年制の専門学校や大学専門科を卒業し国家試験に合格する必要があります。免許を取得しますと、採血や検体検査、生理学的検査を医師・歯科医師の指示のもと可能となります。中でも採血と生理学的検査は「医師・歯科医師・看護師・保健師・助産師・臨床検査技師以外の者が行ってはならない」と法律で定められています。

2. 専門性を高めるために

医療は『日進月歩』。我々も新たな知識や技術を取り入れ、個々の能力を高めるため、臨床検査技師国家資格に加え多くの認定資格取得にも取り組んでいます。その一部を紹介します。

■ 細胞検査士

細胞が良性か悪性かを判断する細胞検査は極めて高い能力が求められます。学力試験と技能試験があり合格率が極めて低い難関ですが、当院ではこの検査に従事する技師10人が資格を取得しています。

■ 認定血液検査技師（写真①） ※写真②は顕微鏡で血球の観察と分類を行っている様子

赤血球や白血球などの血液検査に関する高い専門性を有することを証明する資格で、やはり学力試験と技能試験があります。当院では10年以上のベテラン技師6名がこの資格を取得しています。

■ 超音波検査士

臨床経験を有し超音波認定医の推薦を受けた上で筆記試験に合格する必要があります。対象臓器ごとに細分化されており、当院では循環器9名・消化器5名・血管5名・体表3名・腹部2名がこの資格を取得しています。

3. 信頼出来る検査データを提供するために

皆さまに提供する検査データの信頼性を保つため、検査室では検査装置毎に精度管理という作業を常に行っています。作業手順や正しい測定が行われている事が確認された施設に授与されるものに『精度保証施設認証書』があります。当院ではこの制度が発足した2011年より認定を受け、2015年も認定をいただきました。

（文責：中央臨床検査部技師長 中江 健市）



写真② 顕微鏡による血液の観察

写真① 認定血液検査技師チーム



栄養部

糖尿病の食事療法を楽しく、気軽に知るために

当院では、月に1回医師、薬剤師、臨床検査技師、歯科衛生士、管理栄養士の連携の元、外来集団糖尿病教室を開催しています。

医療スタッフによる講演だけでなく、糖尿病に関する疑問や不安、時には悩みなどを相談する場所でもあり、講演後参加者同士で話し合い、同じ療養生活を送る上での励みにもなっております。

今回は管理栄養士による講演内容を紹介します。
主に6回シリーズ制の前半（夏編）と後半（冬編）で分かれており、外食や間食の仕方・食品交換表の使い方・食事から見た体重の話はもちろん、夏にぴったりの冷涼レシピ（野菜たっぷり冷麺や冷しゃぶなど）、低カロリーおやつ（コーヒーゼリー、レモンスカッシュなど）や逆に注意したい食事（実はそうめんは要注意！）などを紹介しています。

又、季節を感じる料理（柿なますや菜の花づくし）

冬に体が温まる汁物や飲み物（豚汁やけんちん汁など）様々なレシピを紹介しています。

参加者の声には「このレシピを楽しみにしています！」「知りたいことがよくわかりました！」「いつもレシピ作ってみたいです！」という声も頂いています。

食事療法は毎日継続することが重要です。続けられる方法としては、このような講演で再度新たな気持ちで取り組めることです。食事療法がうまくいかない、どうしても間食をしてしまう、どうしたらいいのかよくわからない等さまざまな要望や疑問に答えられるように、また、どのようにすれば不安なく続けられるのか、そんな声にお応えできますように全力でサポート致します。

（文責：管理栄養士 小池 和紀）

春
Spring

春野菜を先取りしたレシピで



菜の花の酢味噌和



筍ご飯

夏
Summer

パルスweetという甘味料で
低カロリーデザートに！



レモンスカッシュ



スイカパンチ



コーヒーゼリー

秋
Autumn

秋の味覚を楽しみましょう！



松茸風味ご飯



柿なます

冬
Winter

生姜や唐辛子で寒さに負けない！



一味+豚汁



ホットジンジャー

毎月、外来で糖尿病教室を開催しています。

興味のある方は主治医にお声かけください。

●場所：PET棟大会議室 ●時間：11時～12時

日 程	テーマ	講 師	テーマ	講 師
7月27日(月)	糖尿病の基礎知識(1)	医師	夏バテしないで体重を落とす方法 ～暑い夏も野菜料理で乗り切りましょう～	管理栄養士
8月17日(月)	糖尿病の内服薬とインスリン	薬剤師	お酒とお菓子和糖尿病 ～夏を楽しむ低カロリーおやつレシピ紹介～	管理栄養士
9月28日(月)	糖尿病管理に必要な検査について	臨床検査技師	使ってみよう食品交換表 ～実りの秋 食材満開 秋の味覚で献立作成～	管理栄養士
10月26日(月)	糖尿病の基礎知識(2)	医師	糖尿病でも外食したい ～秋の食材を楽しみましょう！～	管理栄養士
11月16日(月)	糖尿病と歯周病	歯科衛生士	年末年始は危険がいっぱい！ ～楽しむための工夫～	管理栄養士
12月21日(月)	糖尿病とフットケア	看護師	意外と知らない落とし穴 ～糖尿病の〇×クイズ(冬編)～	管理栄養士

安全管理部

患者さまの患者さまによる患者さまのための患者安全へ

新緑の息吹を肌で感じながら、近畿大学医学部附属病院も新しい年度をここに迎えていました。

実は、私が医療安全対策室で仕事を始めた当初から、二人三脚で患者さんの対応を担当し、私たちを助けてきてくれた田中俊夫翁が3月末日を持って勇退しました。長年、阿吽の呼吸でやってきただけに、1年間頑張ってくれた主任の退職とともに、実に寂しい思いをいたしました。しかし、その傍ら、百人力の頼りがいのある新しいメンバーが加わってくれ、沢山の院内医療安全サポーターの皆とともに、今日を新たな門出にすべく心を奮い立たせています。

我々、近畿大学医学部医療安全チームは、今年のテーマに「患者さんとともに！」と言う言葉を掲げました。勿論、医療は患者さんなしではありえないのですが、医療安全と言う活動は、ともすれば病院（職員）を護ると勘違い（敢えて「勘違い」と書かせていただきます）されがちです。医療安全の英訳は「Patient Safety」であり、日本語でいうと「患者安全」と言うことになります。歴史的な問題か、韻の問題か、本邦ではこれを「医療安全」と呼んで

います。我々「近畿大学医学部附属医療安全管理部門」では、蝙蝠的ではありますが、英語表記を「Department of Patient Safety and Management」といたしました。本当は、Managementと言う言葉ではなく、Leadershipとしたかったのですが、日本語にするにさらに意味が解らなくなりますので我慢している次第です。

話を戻しますが、患者さんからは、病院職員が自分のために勝手にやっていると取られがちな我々の活動を、本来の、文字通り「患者さまの患者さまによる患者さまのための患者安全活動」にしたいと考えたのです。そこで、我々は患者さんをお願いがあります。当院の患者安全活動に参加して頂けませんか？お誘いする内容は多種多彩です。当たり前だろう！と思われるものから、そんなこともするのか？と言うものまであるかも知れません。

これからのより良い近畿大学医学部附属病院を皆さんと創る活動に、皆様のご参加を祈念しております。

（文責：医療安全対策室長 辰巳 陽一）

【患者さんへのお願い】

- 1 患者さんの安全確認のために、存じ上げている患者さんにも、お名前を名乗っていただきます。
- 2 入院中の患者さんの、治療行為（投薬、点滴、検査、輸血など）の確認に携帯情報端末（PDA: Personal Digital Assistant）を使用しています。本当かどうかご確認ください。
- 3 治療方針決定には、出来るだけ患者さんにご参加いただきます。
- 4 患者さんにわかりやすい医療内容の説明文書を作成しています。
- 5 患者さん御自身のことについて、一緒にもっと理解しましょう。弱っているのかな？元気になってきているのかな？転びやすいのかな？飲み込みにくいのかな？
- 6 気になることについて、お問い合わせください。手術のこと、痛みのこと、薬のこと、感染のこと、転倒の危険性、医療ミスの疑念など、なんでも結構です。そして先に述べたような医療行為が行われてないようならば、なおさらです。気になることは「声に出してください」。
- 7 まだ人数が少なく、活動が本格的ではありませんが、医療安全サポーターにご参加下さい。





理学科

生命科学科

応用化学科

理工学部・理学科 教授
山口 仁宏

医学部との連携を志向した 幅広い研究も行われています

理工学部では、レーザーの医学・医療分野への応用研究(電気電子)、工学の医療・福祉応用に関する研究(機械)、抗がん剤・がん治療の開発(化学・生命科学・応用化学)、基礎医学に直結したバイオテクノロジーの最先端技術に関する研究(生命科学)など、医学部との連携を志向した幅広い研究も行われています。また、大学院には遺伝子カウンセラー養成課程が設けられており、病院の診療部とも連携する人材を育てています。

■研究概要

理工学部は、近畿大学の中で最も古くからある学部のひとつであり、7学科(理学科(数学・物理・化学)、生命科学科、応用化学科、機械工学科、電気電子工学科、社会環境工学科、情報学科)より構成され、理学と工学の基幹分野を全て備えております。従って、研究内容も基礎から応用まで多岐にわたり、各界に多くの優秀な人材を輩出してまいりました。現在、異分野の交流を通して異分野融合による新しい学際領域を築こうとしています。

卒業生の
graduates

二見 国彦 先生



二見クリニック

〒586-0095
大阪府河内長野市あかしあ台 1-8-16
西井ビル 1F
TEL 0721-50-1555



私は昭和63年近畿大学医学部を卒業いたしました、二見国彦です。卒業後、脳神経外科教室に入局し勉強させて頂きましたが、以前より僻地医療に興味を持っており脳神経外科退職後は、僻地赴任を真剣に考えておりました。そのためには、幅広く診察ができる様に経験を積もうと、多種多様な病院で働かせて頂きました。

40歳となり、体力的にもそろそろ行かねばと行き先を探していると周囲からの猛反対のためあえなく断念いたしました。

それではと、白衣に自転車で往診をするテレビで見る様な診療をしたいと考え、往診、在宅医療を中心としたクリニックを河内長野市に開院いたしました。

開院時より地域密着医療を心掛けてあっという間に、12年が経過致しました。親子三代のみならず、四代目さんも来院される事もあり充実した開業医人生を過ごしております。

往診、在宅医療の方も24時間対応可能な体制をとっており大変な時もありますが、緊急時には母校である近畿大学医学部附属病院がいつも対応して頂けるので、安心して在宅医療を行なう事ができ感謝しております。

往診、在宅医療を通じて沢山のケアマネジャーさん、訪問看護ステーション、病院の地域連携の方々と知り合い共に一人の患者さんを自宅にて診察する事は、今の私のライフワークとなっております。

今後も近畿大学医学部附属病院のバックアップを受けながら、未長く続けていきたいと考えております。

○内科 ○外科 ○リハビリテーション科

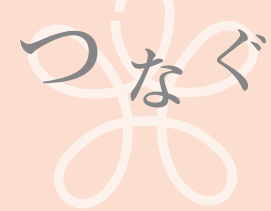
診療時間	月	火	水	木	金	土	日祝
9:00～12:00	●	●	●	●	●	●	×
18:00～20:00	●	●	×	●	●	×	×

休診日：日、祝、夏期休暇、年末年始



連携病院

Cooperation hospital

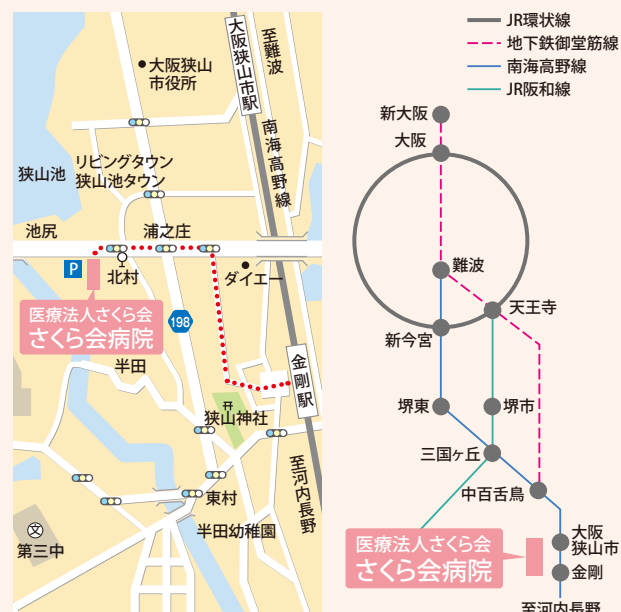


〒589-0011

大阪府大阪狭山市半田5丁目2610-1

TEL 072-366-5757 (代表)

http://www.sakurak.jp



当院に受診いただいている患者さんの多くは近隣の医療機関からの紹介でお越しいただいています。また専門的な治療が終了したり、ある程度病状が落ち着けば、紹介元の医療機関に紹介させていただいたり、継続して入院が必要であれば病状に応じた医療機関に転院していただいています。

患者さんに本当に必要な医療を適切な医療機関で受けていただけるようにつなぐため緊密な連携を行っています。



医療法人 さくら会

さくら会病院

「私たちは良質なサービスと和やかな療養環境を提供し、地域の皆様の健康を支援いたします。」を病院理念とし、昭和58年に河南病院として開設。平成24年に病院名をさくら会病院に変更されました。

8診療科と147病床を備え、脳神経外科、整形外科、内科、リハビリテーション科の4つの診療科を核に、大阪狭山市を中心とした地域の医療セーフティネットの一員として地域の診療所、医療・介護福祉施設と密接な連携を図り、患者さんの回復を切れ目なく支援されています。

脳卒中や骨折などの運動器疾患に対して24時間の救急医療と先端治療を提供されており、回復期リハビリテーション病棟は、リハビリ専門医2名、認定医1名及び整形外科、内科の専門医が担当し、セラピスト、看護師、MSW、管理栄養士、歯科衛生士等多職種が協働し患者さんの少しでも早い在宅復帰を目指されております。

平成25年度にはさくら会病院から402名の患者さんを当院にご紹介頂きました。また当院からは病状が落ち着いた等の患者さんを345名受け入れていただくなど病院間の密な連携を図っています。特に脳卒中中の患者さんには脳卒中連携バスという共通の治療計画書を用いて、当院での治療後に、さくら会病院でリハビリテーションを受けて頂ける体制を構築しています。

さくら会病院からのメッセージ



近畿大学医学部附属病院には、多くの急性期患者さんを受入れていただく一方で、脳神経外科・整形外科疾患のリハビリ目的患者さんを回復期リハビリテーション病棟へご紹介いただいております。

お互いが個々の機能を活かし、地域のニーズに応じた医療の提供に努めております。また近畿大学医学部附属病院からは、多くの診療科で非常勤医として診療に携わっていただいております。日頃からシームレスな医療連携を図っております。

地域から信頼され、求められている機能を果たしていける様、職員一同努めてまいりますので、これからもさくら会病院をよろしくお願い致します。

患者支援センター

受付時間 月～金 9:00～17:00 土 9:00～12:00

患者さんの療養生活にまつわる様々なことに対応する総合相談窓口として、他機関や地域そして社会との連携の架け橋となるのが患者支援センターです。

患者さん・ご家族・地域の開業医の先生や医療機関、介護施設や介護事業所の方々そして院内のスタッフからのご相談やご依頼をお引き受け致します。

患者さんとの信頼関係を大切にしてお受けする皆さまの権利を守っていきたくと考えております。

●療養支援

- 在宅での看護ケアの継続
- 介護保険の申請やサービスの調整
- 訪問診療医や転院先の選定
- カンファレンス開催等

●医療相談

- 医療費制度・費用に関する相談
- 公費負担・労災・交通事故等の手続き（患者さん相談窓口併設）（肝疾患相談支援センター併設）

●医療連携

- 診療の予約
- かかりつけ医選定
- がんセカンドオピニオン等

●福祉相談

- 医療費等経済的な問題
- 社会保険・社会福祉制度について
- 心理的問題 ●社会復帰等

●その他

- ともに生きる会等
- 患者さん向け講演会事務局（がんセンター事務）（難病患者在宅医療支援センター事務）

患者支援センター

■患者支援センターの場所



患者支援センター

2階

《個人情報保護について》

個人情報保護について近畿大学医学部附属病院では患者さんの情報の取り扱いに万全の体制で取り組んでいます。

1. 個人情報の利用目的について当院では、患者さんの個人情報を診療・教育などの目的で利用させていただいております。これら以外の目的で利用させていただく必要が生じた場合には、改めて患者さんからの同意をいただくことしておりますので安心ください。
2. 当院では、患者さんの個人情報の開示・訂正・利用停止等につきましても、「個人情報の保護に関する法律」の規定に従って進めております。